

## 活動報告（平成 15 年）

### 1 戦史関連研究会

◇戦争史研究国際フォーラム◇

「日米戦略思想の系譜」

10月15・16日（グランドヒル市ヶ谷）

基調講演

「海洋国家日本の戦略－福沢諭吉から吉田茂まで－」

東京大学大学院教授 北岡伸一

研究発表

「新秩序の模索と国際正義・アジア主義－近衛文麿を中心として－」

防衛研究所戦史部第1戦史研究室長 庄司潤一郎

「米国とその軍隊－敵と戦争を求めて－」

海兵隊戦闘研究所戦略計画担当官 フランシス・G・ホフマン

「総力戦、モダニズム、日米最終戦争－石原莞爾の戦争観と国家・軍事戦略思想－」

防衛研究所戦史部主任研究官 石津朋之

「第二次世界大戦における米国の戦略とリーダーシップ」

オハイオ州立大学名誉教授・防衛分析研究所上級研究員

ウィリアムソン・マーレー

「敗戦国の外交戦略－吉田外交とその継承者－」

京都大学大学院教授 中西寛

「戦略は偶然の産物－米国の太平洋政策（1945～1975年）－」

元陸軍指揮幕僚大学高等軍事研究学校長 リチャード・H・シンライク

「戦略思想としての『基盤的防衛力構想』」

防衛研究所第2研究部主任研究官 道下徳成

「米国の外交政策と戦略－1970年～現在－」

海軍大学校教授 マッキュービン・T・オーウェンス

議長

防衛研究所戦史部長 林 永

コメント

元日本大学教授 秦 郁彦

学習院大学教授 井上 寿一

◇各種研究会◇

1月31日、2月3～4日

「現代戦における概念と理論に関する諸問題」

「イスラエル国軍の建設と進化」

「現代における非通常（非正規）戦争に関する諸問題」

テルアビブ大学教授 マツテイ・マイツェル

3月4～6日

「ドイツの電撃戦とオランダ（1940年5月）」

「オランダの本土防衛と国際協力（1568年～現在）」

「軍事史研究の今日と今後」

オランダ王国陸軍軍事史研究所長 ピート・H・ケンプハウス

3月18～20日

「第二次世界大戦における軍事的リーダーシップ」

「戦間期（1920～30年代）におけるアメリカ軍の変革・革新」

「PMEの過去、現在、将来」

オハイオ州立大学名誉教授・防衛分析研究所上級研究員

ウィリアムソン・マーレー

4月21日

「戦後史オーラル・ヒストリーの意義と将来」

政策研究大学院大学教授 伊藤 隆

5月29日

「オーラル・ヒストリーの生かし方」

東京大学教授・政策研究大学院大学教授 御厨 貴

6月24日

「近代日本の国際秩序論」

東京大学教授 酒井 哲哉

7月9日

「戦後安全保障・防衛政策研究とオーラル・ヒストリー」

政策研究大学院大学助教授 佐道 明広

7月16日

「陸士出身丁來赫が語る朝鮮戦争とその後50年間」

元大韓民国国会議長・元国防部長官

チョン 丁 ネ ヒョク 來 赫

8月27日

「米国の介入とベトナム症候群」

筑波大学教授 松岡 完

9月3日

「米国のオーラル・ヒストリーの現状－ヒアリング調査における目的・方法・利用法の比較－」

政策研究大学院大学特別研究員 武田 知巳

12月10日

「行方不明者の搜索と戦没者遺骨収集活動の現状と課題」

NPO「JYMA」副理事長 米津 等史

12月16日

「日中間の歴史認識をめぐる諸問題」

評論家 保阪 正康

## 2 戦史編さん等一現況と今後一

防衛研究所は、戦史叢書編さん以来四半世紀を経た今日、新たに戦史編さん業務に着手している。しかしながら、ここでいう戦史編さん業務は、防衛研究所として実施できるもの、しかもこれまで手を付けて来なかった“戦史編さんの責務に関わるもの”である。すなわち、防衛研究所において戦史編さんが常続的に実施されることは国の責務であるが、戦史編さんは、訓令により、あくまでも防衛庁長官の定める「基本計画」に基づく業務とされている。このため、防衛研究所は体制的基盤を固め、戦史の刊行又は不断の作業を推進できる環境整備への取り組みを不可欠とし、昨年の「戦史編さん準備」（防衛研究所戦史部編『戦史研究年報』第6号、平成15年3月、246頁）において報告したところの趣旨に基づく戦史編さん業務を推進しているものである。以下、平成15年度における防衛研究所の戦史編さん業務の概要と今後の取り組みについて紹介する。

防衛研究所が新たに取り組んだ事項は、編さん業務に関わる基本的枠組みを整備したこと、次いで、その枠組みの下、組織的・体系的・継続的に編さん業務を推進するためのスキームを策定したこと、同時に史料の収集と史料集の編さん及び戦史叢書の補備（以下「戦史史料編さん」と呼称）等の具体的な戦史編さん業務を開始したことの3点に要約できる。

まず、編さん業務の基本的枠組みの整備は、戦史編さん委員会（平成14年3月6日設置）の指導監督の下に「防衛研究所の戦史編さん等に関する達（平成15年防衛研究所達第5号）」（以下「達」と呼称）及び「戦史史料編さんに関する指針（通達）（防研発史第5号。15.7.22）」（以下「指針」と呼称）を作成した。

このうち「達」においては、「基本計画」が示達される場合を予期し、それに円滑に対応するため、防衛研究所の初動の要領を定めておくとともに、中長期的展望に立った戦史史料編さん業務の計画・実施・成果報告等の基本的事項を規定した。さらに「達」は、防衛研究所としての戦史史料編さん方針を「指針」の形で示すための手順についても明らかにした。

そして「達」に基づき作成された「指針」には、戦史史料編さんの今日的意義、防衛行政上のニーズ等の編さん環境を踏まえ、中長期的目標・テーマ（編さんの方向、編さんの重点項目等）の選定基準を列挙することにより、戦史史料編さんのスキーム策定のための準拠を明示している。列挙した選定基準は、「防衛政策及び自衛隊の行動に関わる事項」、「史料収集に緊急性が求められる事項」及び「戦史叢書の補完」の3項目を重視した。これらは、これまで曖昧なまま放置してきた防衛研究所の戦史編さんの枠組みを明確化したものである。

なお、この他の枠組としては、新規予算（例えば、平成16年度のオーラル・ヒストリー

関係経費）等の年度業務計画への措置も含まれる。

次いで、前述の枠組み（制度等）内での戦史史料編さんのスキームを策定したことである。この狙いは、従来、グランドデザインもなく虫食い状態に作成されてきた史料集、ほとんど手付かずの現代史関連の史料の収集等を組織的・体系的・継続的に実施していくことにある。このため、「指針」を基に、充当しうる人的・時間的・予算的な可能性を考慮し、中期的目標を確立して、その達成要領に関するスキームを戦史編さん委員会の指導監督の下に作成した。

スキームは、史料集編さんデザインを中長期展望にたって描いた中期計画と、年度毎の具体的史料集編さん要領を明らかにする年度計画とにより構成し、また進捗状況並びに防衛行政上からの喫緊の課題等にも柔軟に対応していくことを前提としている。

そして、中期計画には、平成15年度から概ね5年間を基準とする期間の戦史史料編さんテーマ（中期的目標）－「我が国の安全保障政策に関するオーラル・ヒストリー（口述記録）の作成」、「戦史叢書の補備」、「国防制度史関連史料集の編さん」及び「戦史編さん基盤の整備」の4項目－を確立した。この際、前の3項目は、戦史史料編さんテーマとしての目標であり、残る項目の「戦史編さん基盤の整備」は、それぞれのテーマに共通的に付随する目標として設定したものである。また、最も重視している目標は「我が国の安全保障政策に関するオーラル・ヒストリーの作成」である。その理由は、戦後60年に及ぶ歳月が関係者の貴重な証言の機会をなくしつつある現状を、現代史編さんのための喫緊の課題と認識しているからである。

このような戦史編さん業務のための枠組み・スキーム作りと並行し、平成15年度においては、2つの戦史史料編さん業務をパイロット的に実施してきた。それは「戦後の再軍備草創期（1950年代後半から60年代）を中心とするオーラル・ヒストリーの作成」、「戦史叢書の補備」である。その成果としては、平成15年11月から4回程実施した中村悌次元海上幕僚長のオーラル・ヒストリー及び戦史叢書の修正一覧表の作成等を挙げることである。これらは、今後の実施成果と総合することにより、広く活用できる形での成果としていく予定である。

最後に、今後、特に平成16年度の取り組みについて簡単に触れておきたい。基本的には、策定した中期計画に基づく戦史史料編さん目標を、計画的に、かつ着実に具体化していくことに尽きる。但し、中期目標の一つに掲げている「国防制度史関連史料集の編さん」については、旧軍毒ガス弾等関連史料の特別調査及びフォローアップ調査のために着手していないが、当面は、国内外における旧軍の化学兵器遺棄等への関心が高い現状に鑑み、これまでの史料調査結果を整理した「防衛研究所が保有する旧軍の化学兵器に関する史料集（仮称）」の編さんを優先実施する方向で準備を進めている。このため、「国防

制度史関連史料集の編さん」の課題は、引き続き先送りする等、今後、若干のスキームの見直しを予期している。

個々の業務の中で平成 16 年度計画のオーラル・ヒストリーは、インタビュー者数名の方々に合計約 20 回程度の口述記録を企画している。この際、インタビュアーには防衛研究所戦史部以外の部内外の研究者（防衛大学校・各自衛隊幹部学校等）へも広く参加を呼び掛けて、よりニーズに適合した質の高い口述記録の作成を目指す予定である。

また、戦史叢書の補備等については、引用史料集の作成を重視し図書館史料室と一体となっており、今後における叢書研究の基盤を整理していく予定である。

加えて、平成 15 年度までに作成した正誤表は、広く活用されるようにインターネット上のホームページに公開し、叢書の信頼性を向上することを企図している。

以上のように、防衛研究所の戦史編さん業務と今後の取り組みについて概要を紹介したが、これらの成果が、戦史編さんの体制固めのみならず、自衛隊の運用及び教育訓練等、さらにはわが国の防衛政策の立案及び国家間の実りある歴史認識の確立と信頼醸成等の一助となることを期待している。そのため、戦史編さんが防衛研究所の責務であること、そしてこの責務に携わるものとして、古より伝わる“Publish or Perish”を戒めとし精励すると共に、今後もあらゆる機会を捉え、責務の遂行状況（防衛研究所の戦史編さん業務の概要と今後の取り組み等）を紹介していく所存である。

末尾であるが、新たな戦史編さん基盤の整備、特にオーラル・ヒストリーのノウハウの研修等にあたっては、政策研究大学院大学オーラルヒストリー・プロジェクトに多大な御支援を頂いており、この場を借りて感謝申し上げたい。なかでも、伊藤隆教授、御厨貴教授（兼東京大学先端科学技術研究センター教授）、佐道明広 C. O. E. 研究プロジェクト・プロフェッショナルスタッフ、武田知己日本学術振興会特別研究員の方々には深く感謝申し上げます。

### 3 戦史資料の閲覧

防衛研究所は、旧陸海軍関係の公文書、非公文書及び戦史関係の出版物並びにそれらの複製物（以下、「史資料」という）を、平日9時から16時30分まで、図書館史料閲覧室において一般に公開している。

調査研究のため閲覧を希望する者は、所定の手続きをとって誰でも閲覧することができる。

平成15年の閲覧者総数は、3,889名であった。

月別閲覧者数は、下表の通りである。

月	1	2	3	4
閲覧者数	286	302	299	274
月	5	6	7	8
閲覧者数	360	369	371	451
月	9	10	11	12
閲覧者数	368	317	273	219

### 4 レファレンス

防衛研究所は、主に図書館史料閲覧室を窓口として、史資料の検索、特定史資料の内容に関する情報提供、史資料に関する参考文献及び専門的調査機関等に対する情報提供を行っている。

レファレンス件数は昨年より減少したが、部隊史に関連したものが特に目立った。

平成15年のレファレンス統計は、下記の通りである。

#### (1) 要求件数

総件数は、1,736件であった。月別件数は下表の通りである。

月	1	2	3	4
要求件数	191	179	177	133
月	5	6	7	8
要求件数	159	157	168	144
月	9	10	11	12
要求件数	107	120	94	107

(2) 海外からの要求件数

総件数は、89 件であった。

国	アメリカ	韓国	台湾
要求件数	24	15	12
国	オーストラリア	イギリス	カナダ
要求件数	9	7	4
国	中国	南アフリカ	ミャンマー
要求件数	3	2	2
国	ポーランド	イタリア	ドイツ
要求件数	2	2	2
国	スロバキア	ルーマニア	シンガポール
要求件数	1	1	1
国	ロシア	ペルー	
要求件数	1	1	

(3) 質問内容

質問内容	戦争指導	作戦戦闘	部隊史	個人歴	制度	兵器
要求件数	12	108	284	227	104	78
質問内容	軍事施設	服装記章	教範用語	教育訓練	情報	兵器補給
要求件数	116	13	34	21	2	5
質問内容	研究開発	史料	自衛隊史	戦史叢書	外国戦史	その他
要求件数	1	257	0	6	10	458

(4) 陸海軍別

	陸軍	海軍	共通	その他
要求件数	850	520	170	196

## 5 見学者

平成 15 年の主な図書館史料庫見学者は、下記の通りである。

- |        |                     |                  |
|--------|---------------------|------------------|
| 1月28日  | マックスウェル・ケネディー       | ボストンカレッジ客員研究員    |
| 2月6日   | 千葉県公文書館一行7名         |                  |
| 3月4日   | 馬 駿・彭 希文            | 中国人民解放軍国防大学      |
| 3月5日   | P・H・ケンプハウス          | オランダ陸軍軍事史研究所長    |
| 3月24日  | 野田 聖子・鶴保 庸介         | 国会議員             |
| 3月26日  | 神奈川県公文書館一行9名        |                  |
| 6月11日  | 丁 來赫                | 元大韓民国国会議長・元国防部長官 |
| 10月10日 | ジュグデルデミディーン・グルラクチャー | モンゴル国防大臣         |